

S/F REAL4

Q&A 

 あいホールディングスグループ 

株式会社 **ドットウエル** ビー・エム・エス

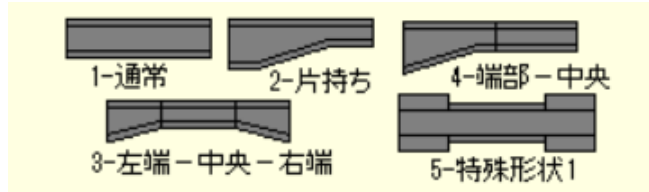
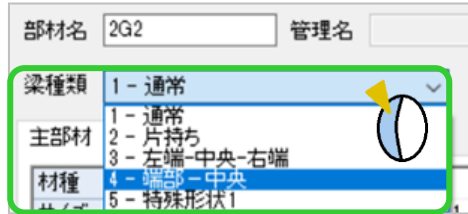
DATA LOGIC

①梁のハンチ設定をしたい！（梁マスター①）

大梁マスターから設定できます。

大梁マスターで設定すると、一括でハンチの設定ができます。

【本体】 - 【マスター】 - 【大梁】 をクリックします。梁種類でハンチの設定方法を選択します。



【1-通常】：主部材と端部材の材種やサイズなどが同じでハンチなしの場合に使用します。

【2-片持ち】：庇など、溶接（スプライス無）の梁をマスター参照でハンチ設定する場合に使用します。

【3-左端-中央-右端】：主部材（中央部材）・左端部材・右端部材で材種やサイズ、ハンチ形状などがそれぞれ異なる場合に使用します。【主部材】・【左部材】・【右部材】・【補強板】の4つのタブを登録します。

【4-端部-中央】：左右端部材の情報は同じで、主部材と端部材の材種やサイズが異なる場合や、ハンチ設定する場合に使用します。【主部材】・【端部材】・【補強板】の3つのタブを登録します。

【5-特殊形状1】：ウェブは1本もので、フランジのみ板継ぎにして板厚・板幅を指定する場合に使用します。



ハンチ設定以外に、梁の材質が主部材とブラケットで異なる場合にも梁種類を変更し材質を設定します。

梁種類を【2-片持ち】、【3-左端-中央-右端】、【4-端部-中央】にした場合、

【ハンチWEB形状種類】もしくは【ハンチFLG形状種類】でハンチ形状を5つのタイプから選択します。

※【1-タイプ1】はハンチ設定をせず、材質を主部材と別に設定する際や、フランジのみハンチ設定する際に使用します。

ハンチ形状を選択後、各項目を設定します。

※設定項目は選択したハンチ形状によって異なります。

【梁側WEB幅】：主部材側のウェブ幅を入力します。

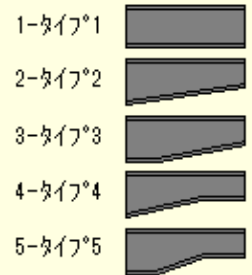
「0」と入力すると、主部材のウェブと同サイズに自動調整されます。

【ハンチWEB梁側】：ハンチにしたい梁側のウェブ幅を入力します。

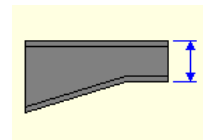
※【パラメーター】 - 【37.柱、梁作成関連】 - 14) 垂直ハンチ外基準の設定により入力基準が変わります。ハンチ長さの入力基準を【1-端部】・【2-柱面】より選択できます。

【ハンチWEBのR値】：ハンチのRを設定します。Rの設定が必要な場合は数値を入力します。

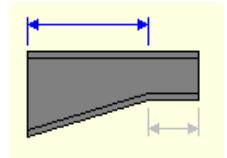
＜ハンチWEB形状種類＞



＜梁側WEB幅＞



＜ハンチWEB梁側＞



・【ハンチFLG形状種類】はフランジのハンチ形状の選択をします。

・梁種類が【3-左端-中央-右端】、【4-端部-中央】で更に【ハンチWEB形状種類】が【2-タイプ2】、もしくは【3-タイプ3】を選択した際は【中央梁折れ位置】の設定があります。

【中央梁折れ位置】は【端部材】の梁サイズのフランジ幅を参照してハンチを設定するため、【端部材】の梁サイズの数値を入力して登録してください。

①梁のハンチ設定をしたい！（梁マスター②）

大梁マスターから設定できます。

例）大梁 2G2 をすべて柱面から 300 の位置でハンチにしてスチフナーを配置する場合

【梁種類】は【4-端部-中央】を選択します。

【主部材】・【端部材/左部材/右部材】・【補強板】それぞれのタブに切り替えてサイズなどを登録します。

<主部材>

<端部材>

<補強板>

中央部材の登録を行います。

ブラケット側の登録を行います。

端部材に補強リブの登録を行います。

主部材	端部材	補強板
材種	2 - H形鋼	
サイズ	350x175x7x11	
材質	1 - SS400	
継手名(左)		
継手名(右)		
継手名(中)	GJ35	
使用階(上)	<なし>	
使用階(下)	<なし>	
階認識符号	1 - なし	
梁合わせ位置	1 - 上合わせ	
セットバック時のWEBプレート位置	1 - なし	
セットバック時のオフセット	0	

主部材	端部材	補強板
材種	2 - H形鋼	
サイズ	350x175x7x11	
材質	1 - SS400	
ハンチWEB形状種類	4 - タイプ4	
梁側WEB幅	0	
ハンチWEB梁側	300	
ハンチWEBのR値	0	
ハンチFLG形状種類	1 - タイプ1	
板継ぎ	1 - なし	
柱側継手名		

主部材	端部材	補強板
板種類	2 - スチフナー	
スチフナー部品	S-12	
スチフナー取り付け位置	1 - 内折れ側	
スチフナー位置	0	

例として次のように登録します。

【端部材】ハンチ WEB：4-タイプ4

ハンチ WEB 梁側：300

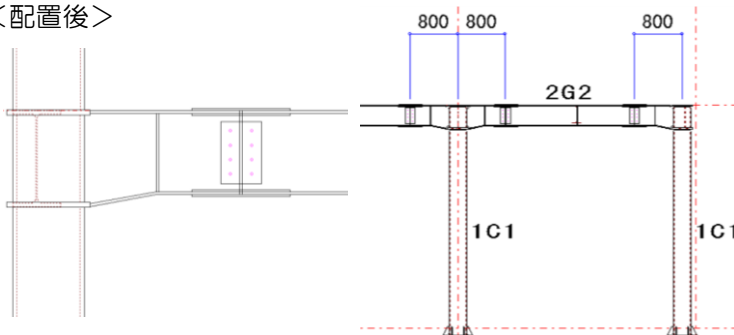
【補強板】スチフナー：S-12（※【マスター】-【部品】で登録したスチフナーを選択します。）

部材名	S-12	管理名		メモ	
部品種類	3 - スチフナー				
材種	1 - フレート				
サイズ	12				
材質	1 - SS400				
スカラップ種類	1 - パラメーター				
スカラップ径	0				

OKをクリックしマスターを閉じます。

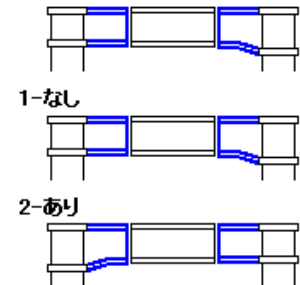
マスター登録でハンチの設定をした梁を配置するとハンチ形状となります。

<配置後>



大梁マスターで梁種類を【3-左端-中央-右端】を選択し左部材と右部材タブで材種やサイズ、ハンチ形状などをそれぞれ異なる設定をしている場合は、配置時の入力シートで梁マスター端部反転の【2-あり】を選択すると、左部材、右部材タブで登録した情報を反転して配置します。

梁マスター設定サイズ



ハンチ形状にならない場合、【ファイル】-【パラメーター】-【37.柱、梁作成関連】-33) 垂直ハンチ合せ(mm)の設定値を確認・変更します。個別に梁を変更する場合は、【梁】-【修正】で左側または右側の【垂直ハンチ合せ】を「3-あり」に変更してください。

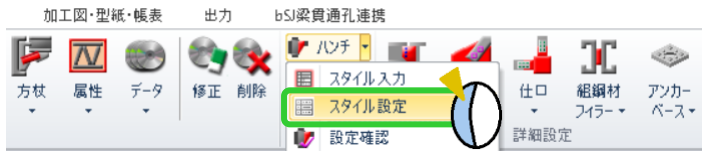


②梁のハンチ設定をしたい！（ハンチスタイル設定）

一部の梁のみの場合は、ハンチスタイル設定から設定できます。

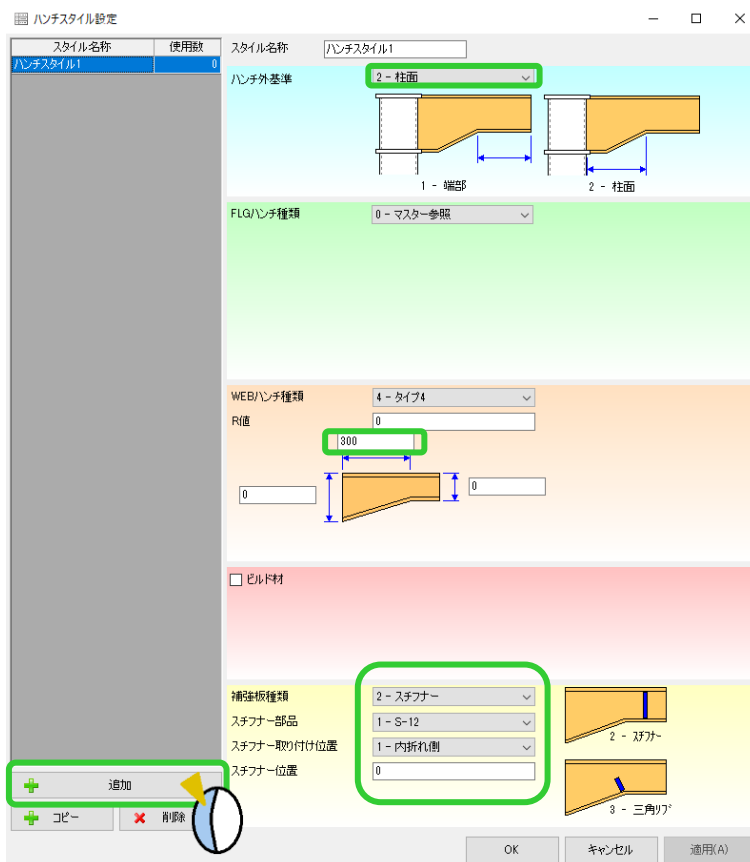
例）一部の大梁 2G2 を柱面から 300 の位置でハンチにしてスチフナーを配置する場合

【ハンチ】 - 【スタイル設定】 をクリックします。



ハンチスタイル設定が開きます。

追加をクリックし、以下のように設定します。

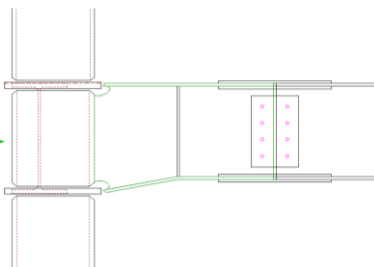
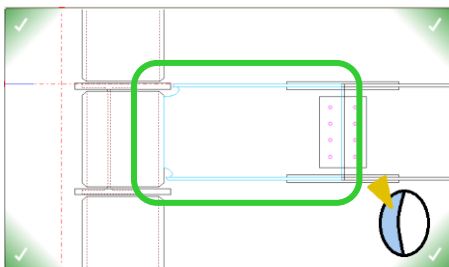


【補強板種類】のスチフナーはあらかじめ部品マスターで登録しておき、選択します。

OKをクリックしてハンチスタイル設定を登録します。

ハンチの入力を行います。【ハンチ】 - 【スタイル入力】 をクリックします。

入力シートでハンチスタイルを選択し、ハンチの設定をするブラケットをクリックして四隅の をクリックします。ハンチスタイルが設定され、設定された箇所が緑色で表示されます。



ハンチで開くサイズを「0」で設定すると、直行する梁サイズに合わせて自動で開くサイズが設定されます。中央部材側も同様に「0」とすることで、中央部材と同サイズに自動調整されます。

左右の梁サイズが異なる場合は、大きい方の梁サイズに合わせて自動で開くサイズが決まります。

ただし、仕口詳細設定でダイア高さなどを変更している場合や、中間の内ダイアをめぐらしてハンチにしたい場合は開くサイズを指定する必要があります。

ハンチスタイルを複数登録する場合は、ハンチスタイル設定で追加をクリックして登録します。また、梁以外の部材にも設定することができます。

ハンチスタイルで設定したハンチは、【ハンチ】 - 【スタイル解除】で解除することができます。



【ハンチ】 - 【設定確認】で設定したハンチスタイルを確認することができます。

梁の上下数値が平面図に作図されてしまう！①

パラメーターで設定できます。

【ファイル】 - 【パラメーター】 - 【図面作成】 - 【5.梁伏図】 - 50)梁上下表示、51)梁上下位置、52)梁上下0値表示で平面図に梁の上下数値を作図するか設定できます。

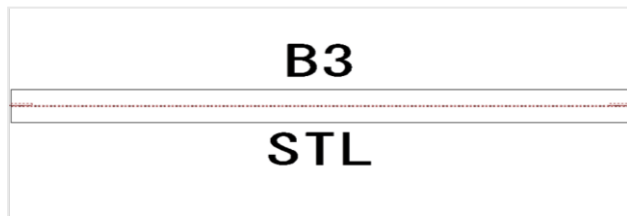
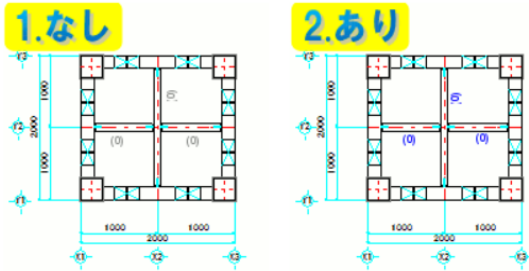


例) 平面図に『STLO』と表示されるので、『STLO』の文字を消したい

項目名称	設定値
49 梁納め表示	2 - 逆のみ
50 梁上下表示	4 - あり(入力値)
51 梁上下位置	1 - 階高
52 梁上下0値表示	2 - あり

【52) 梁上下0値表示】

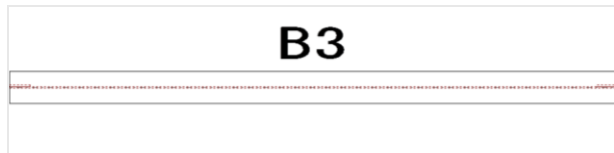
設定値を「1-なし」に設定すると0値が消え、『STL』という文字のみ表記されます。



『STL』の表記は【図面作成】 - 【2.マーク・寸法線】 - 17)鉄骨基準記号で変更できます。

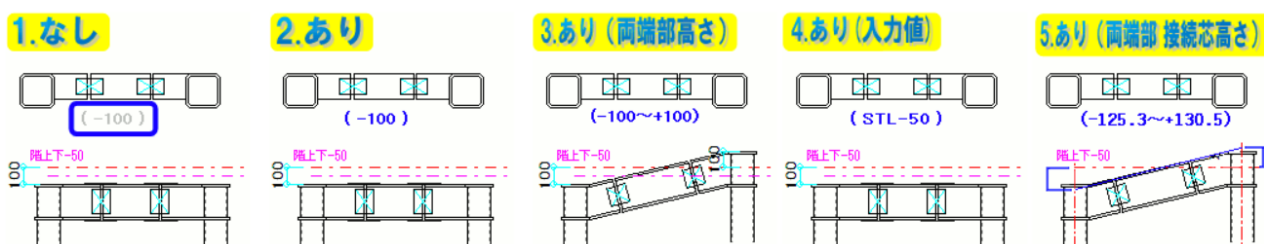
項目名称	設定値
15 ボルトマークスタイル	1 - マスタ
16 継手寸法記号	@
17 鉄骨基準記号	STL

「STL」表記を非表示にする場合は、項目の設定値「STL」を削除して空欄にします。



【50) 梁上下表示】

梁上下の表示の有無や表記する上下数値の種類が選択できます。配置入力画面は『4-あり(入力値)』の固定です。

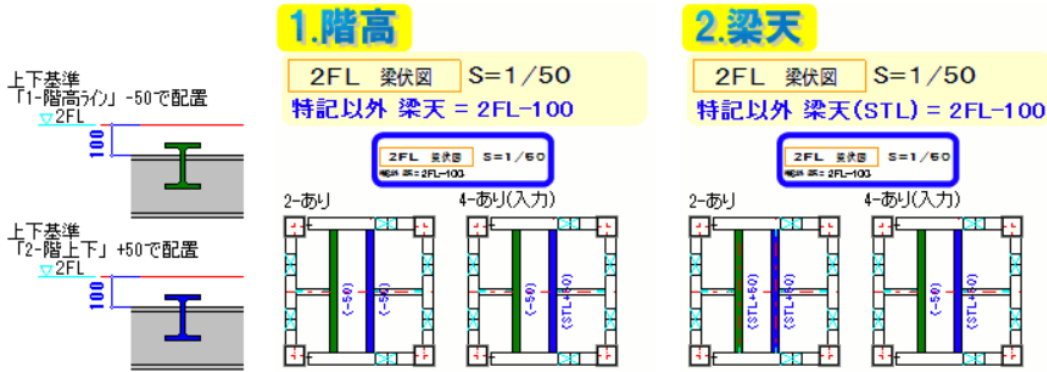


梁の上下数値が平面図に作図されてしまう！②

パラメーターで設定できます。

【51】 梁上下位置

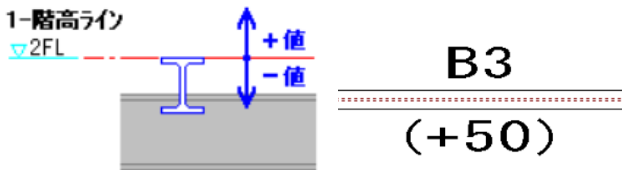
50) 梁上下表示の設定に対して、梁上下の数値の基準を選択できます。配置入力画面は『1-階高』固定です。



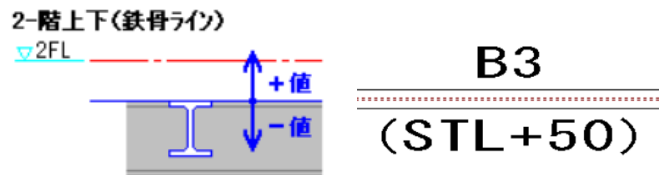
【梁】 - 【入力】 のときに、入力シートの【上下基準】の設定値を基準として、【上下数値】に入力した値が上下値として表示されます。

項目名	設定値
上下基準	2-階上下(鉄骨ライン)
上下数値	50

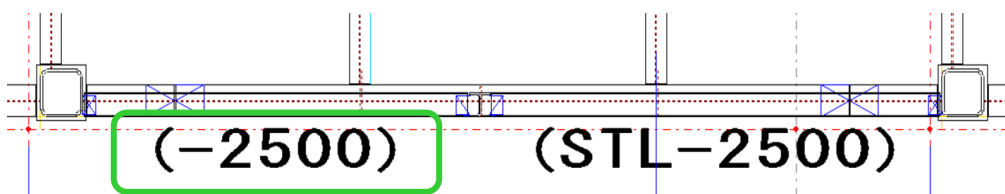
• 上下基準：1-階高ライン



• 上下基準：2-階上下 (鉄骨ライン)



【上下基準】で『2-階高ライン』を設定したときや、側面から梁入力でオフセット入力したときは、値のみ (+/- ○○) で表示されます



スリーブのピッチ入力と一括入力の違いは？①

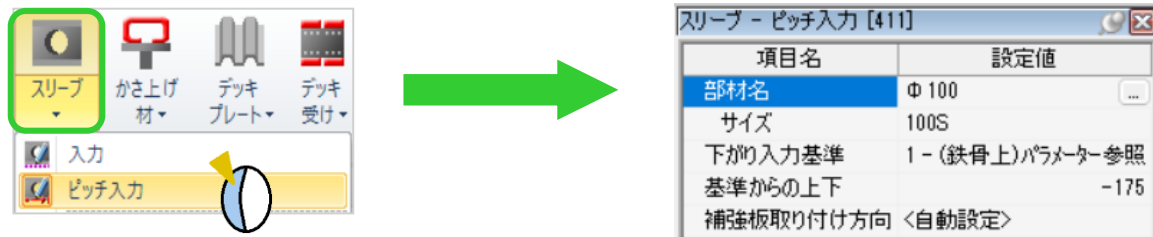
個別の梁に配置するか、複数の梁に配置するかの違いです。

ピッチ入力：個別の梁に配置したい場合に使用します

例) Y1 通り上の大梁に基準位置 (X1 通り) から 1500 の位置に 1 箇所目を配置し、

2 箇所目以降を 1000 ピッチでスリーブを配置したい場合

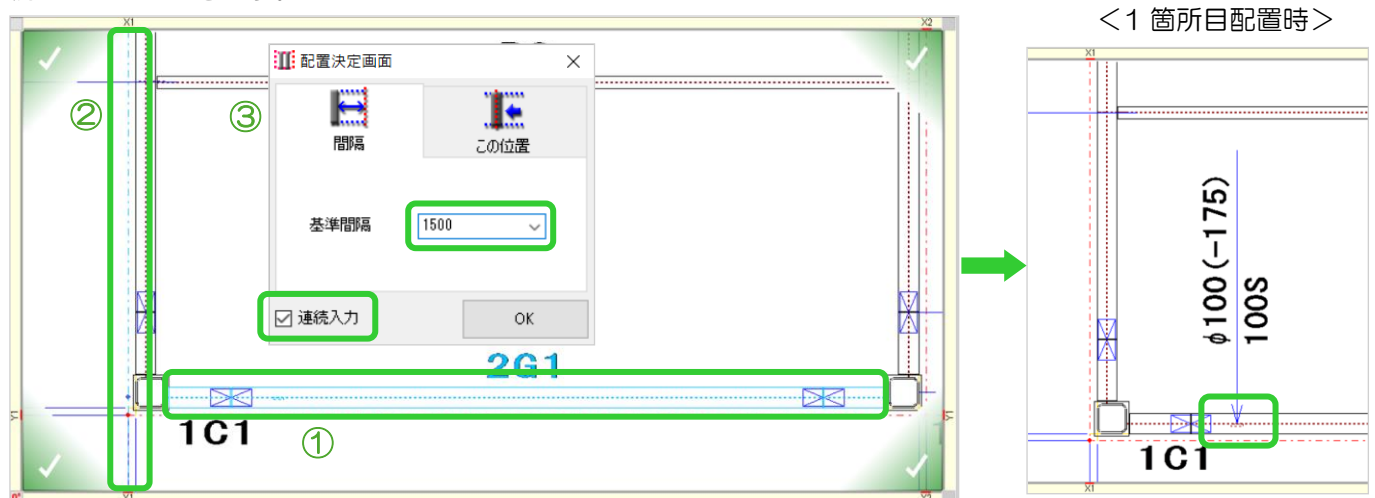
【二次部材】 - 【スリーブ】 - 【ピッチ入力】 をクリックします。右側の入力シートで各項目を設定します。



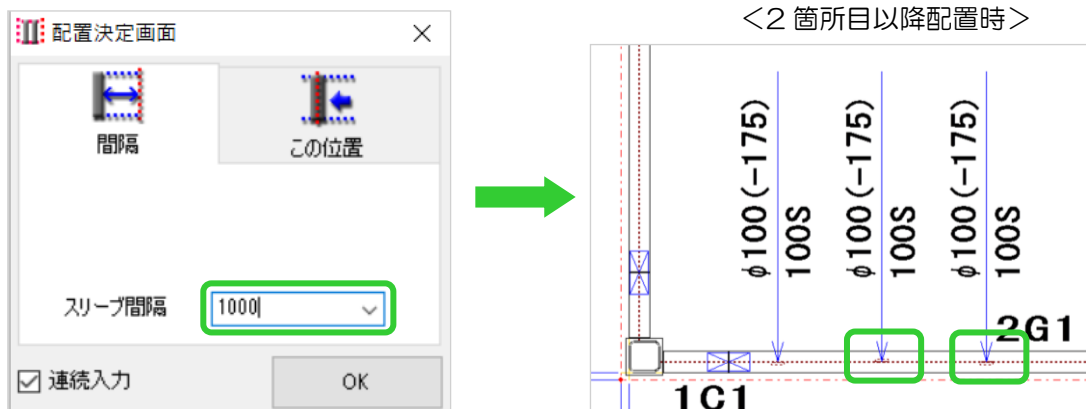
①スリーブを配置する梁をクリックします。

②基準位置 (X1 通り) をクリックします。

③配置決定画面は【間隔】で、配置決定画面の【基準間隔】に基準位置からの間隔を入力し基準位置 (X1 通り) よりスリーブを配置する側の画面上をクリックします。確定前に配置決定画面の【連続入力】に を入れることで続けて入力ができます。



2 箇所目以降に配置するスリーブ間隔値を配置決定画面の【スリーブ間隔】に入力し、画面上をクリックします。



スリーブのピッチ入力と一括入力の違いは？②

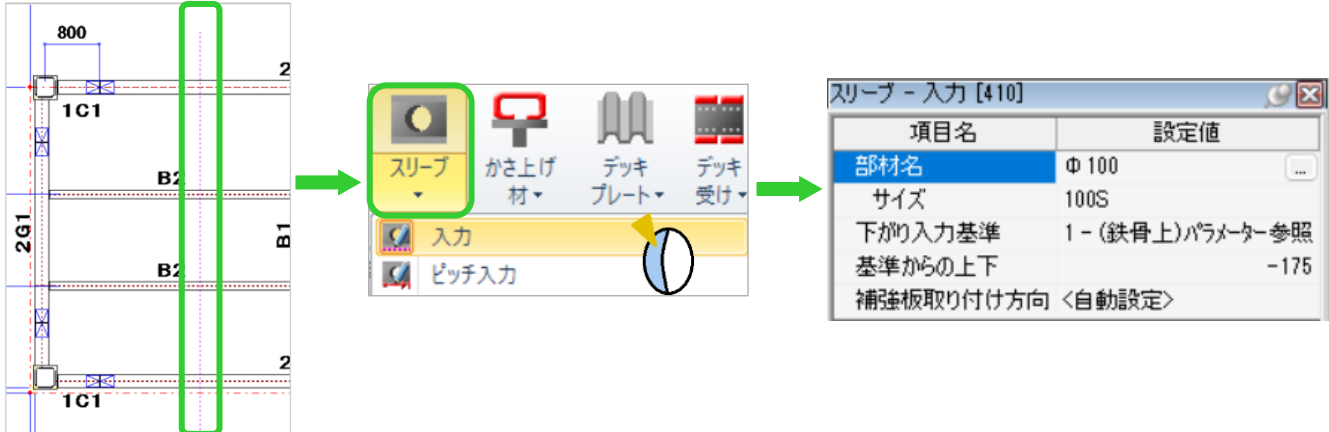
個別の梁に配置するか、複数の梁に配置するかの違いです。

一括入力：複数の梁に配置したい場合に使用します

例) Y1 通りと Y2 通り上の大梁に一括でスリーブを配置したい場合

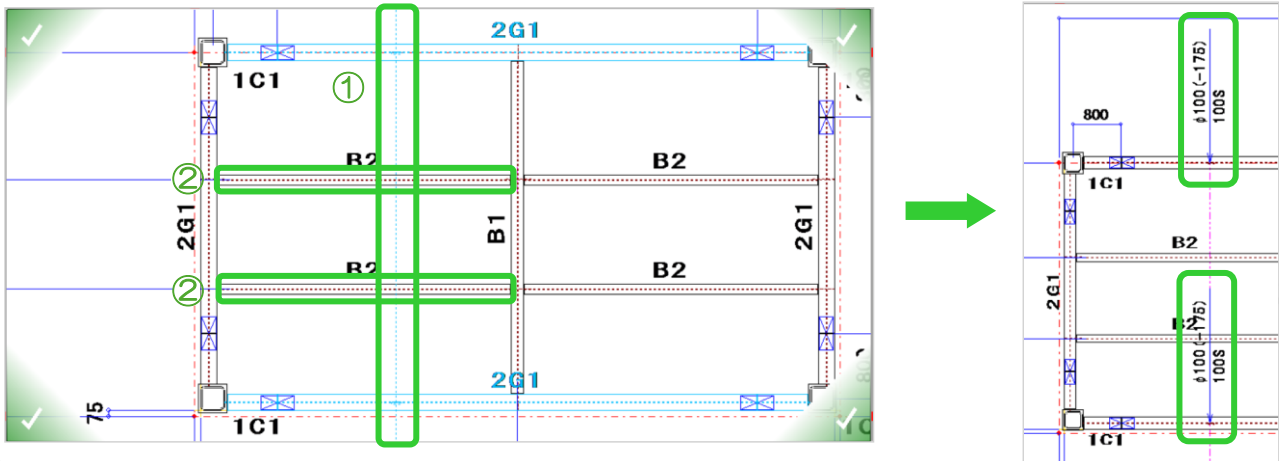
スリーブを配置したい位置に補助線を引きます。

【二次部材】 - 【スリーブ】 - 【入力】 をクリックします。右側の入力シートで各項目を設定します。



①補助線をクリックすると補助線と交差する梁が選択されます。

②スリーブを配置しない梁が選択されている場合は、梁を左クリックして選択解除し、四隅の をクリックして配置します。



【下がり入力基準】：【基準からの上下】で設定する高さの基準を指定します。

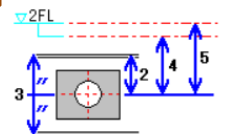
※平面図上に梁天端からの上下数値を出したい場合は【2-鉄骨上】を選択してください。

※【1-パラメーター参照】とした場合は【パラメーター】 - 【二次部材作成】 - 【46.スリーブ】

の【1.下がり入力基準】を参照しています。パラメーターでの設定中の値が

【1-(00)パラメーター参照】のように表記されます。

- 1-パラメーター参照
- 2-鉄骨上
- 3-鉄骨中心
- 4-階高上下
- 5-階高



【上下数値】：【下がり入力基準】で選択した基準から、スリーブ芯の上下数値を入力します。

【補強板取り付け方法】：スリーブの補強板の取り付け方向を指定します。

<自動設定> を選択すると、既製品の場合左右交互に配置します。

❓ 出力した図面に3Dなどの画像を貼り付けたい！

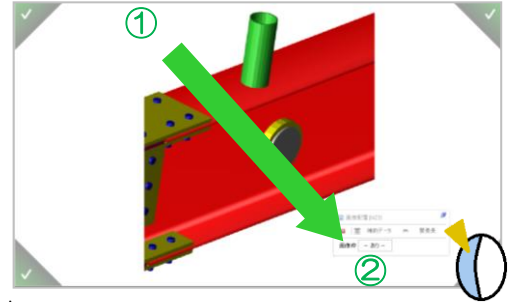
図面編集機能 (Arris4) で画像貼り付けが可能です。

REAL4の【作図】 - 【レイアウト】で図面を開き、【編集】をクリックして編集するパーツを選択します。

＜画像ファイルを貼り付ける場合＞

Arris4で【部品】 - 【画像配置】をクリックします。

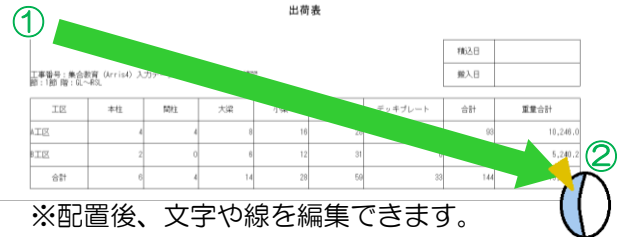
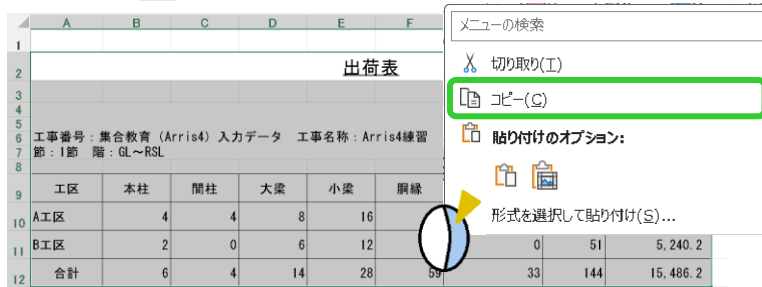
プロパティシートで画像を選択し、貼り付け位置に①開始点をクリック、②終了点をクリックして配置し、四隅のをクリックします。



＜Excel から表や画像を貼り付ける場合＞

Excelで貼り付けたい領域を選択し、右クリックしてコピーを選択します。

Arris4で【貼り付け】をクリックし、貼り付け位置に①開始点をクリック、②終了点をクリックして配置します。

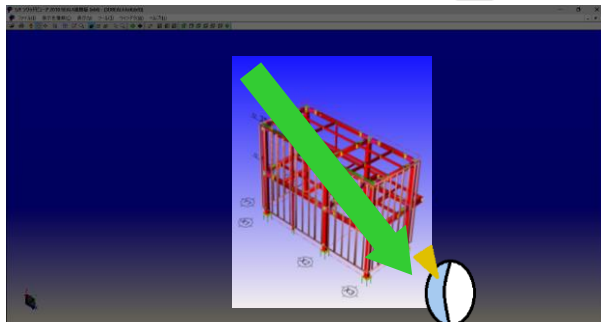


※配置後、文字や線を編集できます。

※グラフや画像も含めて貼り付け可能です。

＜REAL4の3Dソリッドビューアを貼り付ける場合＞

3Dソリッドビューアを開きキーボードのWindows + Shift + Sを同時に押し、貼り付けたい範囲を左ドラッグで選択します。3Dを閉じ、Arris4で【貼り付け】をクリックします。



貼り付け位置に①開始点をクリック、②終了点をクリックして配置します。



Arris4で画像貼り付けを行うことも可能です。

続けて貼り付けを行う場合は、画面切り取りの後、入力シートの「コピー情報を更新する」をクリックしてから配置します。

配置した画像は【図面】 - 【削除】で削除できます。

画像を含めた状態で保存する場合は、ファイル種類を「F6x」で保存します。画像配置の機能はArris4独自のシステムにより使用できるため、F6x以外のファイル種類で保存すると、画像が保持されず欠落した状態で保存されます。